

浪江町

出張が終わり、家にたどり着くと、TV から“秘密のケンミン SHOW”が流れていました。

福島県浪江町は平成 23 年3月11日の東日本大震災において、震度6強の大きな揺れと、高さ15mを超える津波の影響で、甚大な被害を受けた場所です。この地震を原因として、福島原子力発電所は事故を起こし、約21000人いた町民は全国に避難を余儀なくされ、一時は0人となりました。あれから14年。今は町内に約2200人が暮らしています。本校では防災教育に力を入れており、昨年度はこの震災で被災された方に講演していただきました。町興しのため、イメージアップキャラクターに“うけどん”就任し、“道の駅なみえ”が誕生しました。その中には有名雑貨店“無印良品”が入るなど、今や、「人口の少ない



浪江町 HP より



浪江町公式イメージアップキャラクター

うけどん

町の中で、移住してみたい街」の上位にランキングされるということです。その中でご当地人気 B 級グルメ“なみえ焼そば”が紹介されていました。極太の麺に具はもやしと厚めの豚バラ肉だけ、ソースが太麺にしみ込んでいます。町名が名前となる焼きそばですから多くの店が軒の連ねるのかと思いきや、町内で4軒。同じ福島県内に存在し、“喜多方ラーメン”と地名を冠につける喜多方市は、120軒以上の店があるといえますから、“なみえ焼そば”が果たして浪江と冠を

つけてよいのか考えてしまいました。その答えがすぐ出ます。浪江町はかつて、農業、漁業、林業の一次産業が盛んで、腹持ちのよい太麺が重宝されたということです。つまり、なみえ焼そばには歴史がある。時は60年以上。歴史は誰にも邪魔できません。ですから“なみえ焼そば”なのです。

3月6日は生徒集会です。今年度最後の生徒集会では各委員会から活動報告がありました。三年学級委員起案で中央委員会から各学年に広げた「目標達成プロジェクト」の表彰式も行いました。集会が終わり体育館から教室に戻ろうとしたその時、スピーカーから音が流れてきました。数人が気づき、列が止まりました。よく聞いてみると、警報音です。続いて避難訓練を指示する放送が聞こえてきました。体育館の照明を避けるように座り頭を手で覆う生徒、ちょっとしたひさしのような形になっているギャラリイの下に入り落下するガラスから身を守ろうとする生徒、各自判断しました。東日本大震災のような災害がいつ起きるかわかりません。最後は各自の判断が必要です。突然の放送に耳を傾けたことは大変評価できます。



この日の午後5、6校時に、3年生の百人一首大会を開催しました。上の句を読みあげると、直ちに手が動き、場の札を取りに行きます。中には下の句を呼んでも札を探しだせぬグループもありました。途中に、以下の二つの歌が詠まれていました。

来ぬ人を まつほの浦の タなぎに
焼くや 藻塩の 身もこがれつつ

〔現代語訳〕松帆の浦のタなぎの時に焼いている藻塩のように、私の身は、来てくれない人想って恋焦がれているのです。

いつまでたっても来てくれない、つれない恋人を待って身を焦がす少女。その姿を松帆の浦においてタなぎの頃に焼く藻塩と重ねて表現しています。恋相手にやきもちを やき、そば に居て欲しいと願う。繊細で浪漫チックな歌です。

人はいさ 心も知らず ふるさとは
花ぞ 昔の 香に にほいける

〔現代語訳〕あなたどうだったのでしょうか。他人の心は分からないけど、昔なじみのこの里では、梅の花だけが、かつてと同じいい香りを漂わせていますよ。

あなたが変わろうとも、この里のこの梅の花の香りは、あの頃と変わらない。

景色が変わろうと、“なみえ焼そば”は、60年前と変わらず、浪江の人々に笑顔を届けています。

